

しまね学校図書館活用コンクール

取組の概要

学校名 大田市立五十猛小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

(○) 読書活動部門

() 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

- ・図書館の環境を整えたり、読書への興味関心を高める読書活動を計画的・組織的に継続して行ったりすることで、読書が好きで進んで読書する子どもを育てる。
- ・子どもが主体的に読書活動に関わることを通して、豊かな心を育てる。
- ・家読の推進を図り、家庭・地域と連携して、本に親しむ気運を高める。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

本校では、平成21年度学校図書館パワーアップ事業を受け、人が集まる・使いやすい・本が生きる図書館をめざし、「わくわく図書館」のリニューアルを行った。そして、図書館のレイアウトや面出し方法の工夫、本を探しやすくする工夫や図書館へ導く工夫、居心地のよい空間作り等、図書館の環境整備に努めてきた。

本年度は「本が好きで、進んで読書をする子ども」をめざして、読書意欲を高める方法を探りながら、本に親しむ機会づくりや読書の楽しさを味わわせる読書活動の工夫を行った。

(1) 子どもと本をつなぐ読書活動の工夫

①朝読書

各学級での朝読書（毎週月～水曜日15分間）、全校読書（学期に2回30分間）、地域ボランティア「お話しビーンズ」の読み語り（毎週木曜日）を行った。静かに読書をする雰囲気作りや子どもが読みたい時にすぐ本が取り出せるように、マイブックバッグの準備等の工夫を行った。

②読書貯金

読書への意欲を高めるために、読書貯金通帳を作り、読んだ本の題名やページ数を記録した。月末には読んだページ数の合計を出したり、感想を書いたりする振り返りの時間をとった。読書の記録を残すことで、一人一人の子どもの読書の傾向を把握し、読書のジャンルを広げる手立てとした。

③五十猛小必読図書の選定と取組

読書の幅を広げ質の向上を図るため、五十猛小必読図書130冊を選定した。子どもに必読図書ファイルを持たせ、各学年の必読図書を全部読み終わると、わくわく図書館長（校長）発行の認定証を渡した。また、必読図書全部を読んだ子どもには「グランド認定証」を授与し、認定証は図書館前の廊下に掲示した。

④カエル司書クイズ

魅力ある図書館をめざし、図書館入り口にわくわく図書館のイメージキャラクターであるカエル司書のクイズコーナーを作った。クイズは、低学年の子どもでもわかるような内容で、図書館内の展示と関連をもたせた。また、様々な分類の本から問題を出題し、いろいろなジャンルの本の紹介になるようにした。

⑤おすすめ本の紹介

全児童・教職員が一人1冊、おすすめの本を選び、「おすすめ本カード」に本の紹介を書き、本と一緒に展示した。展示後は、手作りのポップをつけて書架にならべ、子どもたちの読書意欲を高めた。

⑥お話し会

- ・学校司書が、昼休みの貸し出しの合間に図書館で本の読み語りを行った。
- ・読み聞かせボランティアの方が、季節にあった本のブックトークを行った。
- ・低学年の子どもを対象に、4つの部屋を移動してお話を聞く「おはなしスタンプラリー」を行った。

(2) 家庭・地域との連携

①親子読書・家読の取組

家庭で本を読まない子どもが44.8%と多い実態（H20年度アンケート結果）から、親子読書（家読）に取り組んだ。家族みんなで本に親しむ時間をもつことをねらいとした「五十猛小の家読」を提案し、読書への関心を高めるために、図書館に大人向けの本コーナーを作ったり、保護者や地域の人々を対象に家読に関わる講演会を開催したりした。家読を月1回、生活チャレンジ週間にあわせて各家庭で取り組むこ

とし、取組方法や感想など家読の記録を書くようにした。また、授業公開日に親子読書の時間を設定し、子どもから親への読み聞かせや親から子どもへの読み聞かせ等を行った。

②「お話ビーンズ」との連携

地域のボラティアサークル「お話ビーンズ」と定期的に情報交換する場をもち、毎週1回の読み語りや図書館内の季節の掲示物の作成をお願いする等、わくわく図書館の共同経営を行った。

(3)「教材文から読み広げ」の取組

国語科で学習した教材文から、図書館の本に読み広げをする取組を行った。学習内容と関連した本を読むようにし、子どもたちの読書のジャンルが広がるようにした。

(4) アイディアいっぱい委員会活動

①図書集会

子どもたちが主体的に読書活動に関われるように、図書委員会による図書集会を定期的に計画・実施した。図書集会では、図書館利用のルールや貸し出しの方法を紹介する劇の発表、大型絵本の読み聞かせ、家読の仕方を紹介する劇の発表、リニューアルした図書館のよさを紹介する紙芝居「わくわく図書館物語」の発表等を行った。

②図書館イベント

- ・ チャレンジズロリ・・・低学年向けイベント。かいけつゾロリシリーズ（原ゆたか作ポプラ社）を読むと、本を返すときに専用の用紙にシールがもらえる。
- ・ 図書館クイズ・・・図書委員が作った図書館クイズを本と一緒に畳スペースに置いた。全問正解者は、名前を書いてラティスに貼りつけた。
- ・ 手作りミッケ・・・広告に載っている商品を切り抜いて、色画用紙に貼り付けたものに「〇〇を〇個探そう」等の問題を書き、「手作りミッケ」として紹介した。
- ・ 分類ビンゴ・・・いろいろな分類番号の本を見つけられる「分類ビンゴ」を作り実施した。
- ・ 季節の催し・・・七夕飾りやクリスマスツリー等、児童が楽しめる季節の催しを読書活動と関連づけて図書館で行った。

③読書郵便

「本の楽しさを伝えたり交流したりする」ことをめあてに読書郵便に取り組んだ。図書委員会が五十猛小わくわく郵便局を開き、全校で取り組んだ。「どうぞはがき」や「ありがとうはがき」を書いたり送ったりすることにより、本の楽しさを伝えたり感想を交流したりする喜びを味わわせ、本に親しみ読書への意欲を高めようとした。また、切手を貼ったり、郵便番号や宛先を実際に書いたりして、本物の郵便のように実施した。はがきに当選番号をつけたり、往復はがきを使い双方向で感想が交流できるようにしたりする等、子どもたちの興味・関心を高める工夫を行った。その結果、読書郵便期間中に読書郵便用に貸し出された本の冊数は**200**冊を超え、送られたはがきの数は**443**枚にもなった。

4 実践の成果

- ・ 図書館のリニューアルや学校司書配置等、図書館の機能や環境を整えたこと、子どもと本をつなぐさまざまな読書活動の工夫を行ったことで、多くの子どもたちが図書館に足を運ぶようになり、子どもたちの読書量は大幅に増えた。読書が好きと答える子どもは全体の**90**%を超える。ほとんど毎日図書館に行く子どもの割合は**46**%を超え、一人の子どもに対する年間平均貸出冊数は**115**冊を超え、平成**20**年度と比較すると3倍近くに増加した。以上のように、読書が好きで、進んで読書をする子どもが増えてきた。
- ・ 月1回の家読を継続して取り組むことにより、家庭で家族一緒に読書をする雰囲気が高まり、親子読書の機会も増えてきた。家読に取り組む人数は全体の**90**%を超え、家庭で週に1～2日以上本を読む児童は**76.5**%、ほとんど毎日読む子どもも**20**%まで増えてきた。
- ・ 教材文から読み広げる活動を行ったことで、今まで児童の興味・関心があまり高くなかった2類（歴史）や4類（自然科学）等の本へ目が向くようになり、子どもの読書のジャンルを広げることにつながった。
- ・ 図書委員会の図書集会や図書館イベント、読書郵便等の取組により、子どもたちが主体的に読書活動に関わるようになり、読書活動への意欲は高まった。図書館が子どもたちにとって身近な存在、居心地のよい場所となってきた。
- ・ 地域ボランティア「お話ビーンズ」だけでなく、学校便りや図書館便りを活用しての情報発信により、保護者や地域の方々の図書館利用が増えたり、図書館イベントへの協力を得ることができたりするようになり、わくわく図書館が地域に開かれた図書館になりつつある。